厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）
分担研究報告書

オンラインを用いた介護専門職の人材育成に関する研究

研究分担者　滝口優子　認知症介護研究・研修東京センター　研究員
研究協力者　齊藤葉子　認知症介護研究・研修東京センター　研究員

研究要旨
【目的】本研究の目的は、地理的理由や人材不足のために介護専門職が研修を受けにくい状況を克服するために、地域の実情に応じたオンライン研修のプログラムを開発し、それを試行的に実施することによって、その有用性や課題を探索的に明らかにすることにある。【方法】新潟県粟島浦村（粟島）と沖縄県北大東村（北大東島）の通所介護事業所に勤務する職員を対象に、オンライン研修のプログラムを考案した。研修の目的は、他の島の状況を理解し、交流を開始するきっかけをつくることにあった。研修は Zoom ミーティングを用いて平日の夕方に 40 分間を予定して実施し、自己紹介や島・事業所の紹介を通じて双方の状況を共有した。研修一週間後に無記名のアンケートを実施し、目的の達成状況やプログラムの見直しに資する意見を収集した。【結果】参加者は計 10 名であった。自己紹介では全員が島での生活歴や職歴を述べた。島・事業所の紹介では動画やスライドを使用する工夫が見られたが、予定時間を超過し、感想や質問の時間は取れなかった。全体で 47 分間（予定より 7 分超過）となった。アンケートは全員から回答があり、相手の島と同じ・似ていると思った点（12 件）、相手の島と違うと思った点（14 件）、聞いてみたいこと（20 件）、一緒に考えてみたいこと（6 件）の回答が得られた。また、オンラインでの実施にあたり心配だった点（6 件）と気になった点（5 件）の回答が得られた。アンケートの回答は島ごとに集約し、参加者全員に配布した。【考察】離島に共通する課題には多くの参加者が共感し、理解や気付きが生まれていた。一方、島ごとの状況にも関心が寄せられ、視野を広げる機会となった。介護サービスや法人運営、人材育成への高い関心からは、現場の改善に向けた意欲が感じられた。高齢者が安心して暮らせる島づくりを共に考える姿勢が見られ、オンライン研修の可能性がうかがえた。【結論】オンラインを用いることで、2 つの離島の介護専門職が容易に集まり、研修会を実施できた。離島という共通の環境にある介護専門職同士が互いの実情を知り、共感や新たな気付きを得る貴重な機会となった。参加者の意欲も高く、地域を超えた学び合いの重要性が改めて確認された。一方、オンラインの特性により、通信環境や発言のしやすさに課題が残った。今後は研修の質を高める工夫とともに、継続的な交流や情報共有の場の設計、実践へのつなげ方を具体的に検討する必要がある。

A. 研究目的

本研究の目的は、地理的理由や人材不足のために介護専門職が研修を受けにくい状況を克服するために、地域の実情に応じたオンライン研修のプログラムを開発し、それを試行的に実施することによって、その有用性や課題を探索的に明らかにすることにある。

B. 研究方法

１．研修プログラムの考案

１）対象

（１）対象地域

対象の地域は、機縁法によって新潟県粟島浦村（粟島）と沖縄県北大東村（北大東島）とした。事前に視察訪問を行い、介護サービス事業所の見学および介護専門職との意見交換、住民の暮らしや社会資源に関する情報収集を行った。

新潟県粟島浦村は、新潟市の北方 63 ㎞の日本海に浮かぶ孤立小型離島で、一島で粟島浦村一村を形成している[1)]。2024 年 1 月 1 日現在の人口は 323 人、高齢化率は 45.8%である[2)]。同村は、1959 年に無医村となった。1961 年に粟島へき地出張診療所が開設され、現在、看護師 3 名の体制となっている。2001 年度から本土の村上総合病院と診療所を TV 電話回線で結び、遠隔診療を行っている。介護保険施設・事業所は、同村社会福祉協議会が運営する通所介護事業所のみである。

沖縄県北大東村は、沖縄本島の東方約 360 ㎞に位置し、北大東島と沖大東島の 2 つの島からなっている。北大東島から南方に約 160 ㎞離れた沖大東島は現在無人島であり、米軍の射撃場に使用されている[3)]。2024 年 1 月 1 日現在の人口は 557 人、高齢化率は 24.1%である[2)]。医療機関は、県立南部医療センター・こども医療センター附属北大東診療所と、村立歯科診療所があり、それぞれ医師・歯科医師・看護師が常駐している[4)]。介護保険施設・事業所は、同村社会福祉協議会が運営する通所介護事業所のみである。

（２）対象者

対象者は、通所介護事業所に勤務する職員とし、勤務形態や所有資格は問わないこととした。

２）研修会の目的・名称

事前の視察訪問において、対象者は他の離島における介護サービスの状況に関心があるが、外部研修に参加する機会はほとんどないとの情報を収集した。両村の介護専門職が交流した機会は過去に無いことも確認した。また、1 回限りの研修とせず、継続してほしいとの要望があった。

このことから、村（島）ごとに研修を実施するのではなく、両村の対象者がオンライン上で集まることとした。同じ対象者で研修会を継続することも想定し、初回の目的は「離島の介護事業所に勤務する介護専門職が、他の島の介護専門職とつながり、同じ点・違う点に気付きながら、交流を開始するきっかけをつくる」とした。

会の名称は「粟島・北大東島の介護専門職が集うオンライン交流会」とした。

３）実施日時

まず、候補日と時間帯（午前・午後）を複数提示し調整を行った。「サービスが終了した後の 16 時 30 分頃からスタートしてほしい」「時間は 1 時間～1 時間 30 分以内にお願いしたい」との要望があった。

実施日は事業所や島の行事と重複していないこと、時間はサービス提供時間に重ならず、かつ万が一接続のトラブルにより開始時間が遅れた、画面がフリーズしたといった場合に多少の延長をしても就業時間外の勤務が発生しないよう配慮し、2025 年 2 月 18 日（火）16：30〜17：10（40 分間）とした。

４）実施形式

実施形式は Zoom ミーティングを用いた。Zoom ミーティングの設定は筆者が行い、実施 1 週間前に招待リンクを共有した。その際、カメラや音声の接続テストの希望を尋ね、対応した。

オンライン環境の準備状況と、実施中の参加者の様子を把握することを目的として、筆者が粟島浦村、当センターのスタッフ 1 名が北大東村へ訪問して参加する計画を立てていたたが、悪天候による交通機関の運休・欠航が見込まれた粟島浦村への訪問は中止した。北大東村には計画どおり訪問した。

５）考案したプログラム

40 分間のプログラムは、開会あいさつ（5 分）、参加者の自己紹介（5 分）、島の紹介・事業所の紹介（10 分ずつ計 20 分）、全体で共有/振り返り（5 分）、閉会あいさつ（5 分）と計画した（表 1-1）。

事前に次第を配布し、「参加者の自己紹介」では一人一言の自己紹介を行うこと、「島の紹介・事業所の紹介」では 7 分ほどで説明いただき、残り 3 分は感想や質問の時間とすることを周知した。また「島の紹介・事業所の紹介」の事前準備が具体的に進められるよう、当日紹介を担当するのは代表者でも何名かで分担してもよいこと、Web カメラで事業所内の様子を映したり、写真や動画を Zoom ミーティングの「画面共有」機能を使って映す方法を例示した。

開始時間までに各島から「島の紹介・事業所の紹介」で用いるデータファイルが提出され「画面共有」の操作を代理で行うこととなった。

２．アンケートの実施

研修の目的の達成状況を明らかにすることと、研修プログラムの見直しに資する意見を聴取するために、無記名自記式アンケートを実施した。アンケートは Word ファイルで作成し、実施 1 週間後にメールに添付して各島の代表者に送付し、参加者への配布を依頼した。回収方法について各島の代表者に相談したところ、アンケートは代表者がとりまとめて提出するという方法が定着しており、今回も同様の方法で支障は無いだろうという意見であったため、代表者にとりまとめと提出を依頼した。回収期間は 1 週間とした。

質問項目は筆者が独自に作成した 6 項目とし、すべて自由記述形式とした（表 2）。

（倫理面への配慮）

参加者に対し、記録のために研修中の様子を Zoom ミーティングのレコーディング機能を用いて録画すること、アンケートの集計結果を報告書に掲載することについて、口頭で説明し、同意を得た。

C. 研究結果

１．プログラムを実施した結果

参加者は、粟島浦村 4 名、北大東村 6 名であった。その他、当センターのスタッフ

3 名（筆者を含む 2 名は東京から、1 名は北大東村から）が参加した。

Zoom ミーティングのホストと会の進行は筆者が担当した。

「自己紹介」では全員から島での生活歴や職歴が紹介された（表 3）。

「島の紹介・事業所の紹介」では、口頭で島の紹介を行った後、通所介護事業所の一日を紹介する BGM 付き動画を映写（北大東村）、PowerPoint のスライドショーにそって口頭で説明（粟島浦村）といったそれぞれの工夫がみられた。両島とも持ち時間を超過し、感想や質問の時間が作れなかった。

「島の紹介・事業所の紹介」が終了した時点で開始から 43 分が経過（3 分超過）していたため「全体で共有/振り返り」は事後アンケートへの協力依頼と次回の開催についての案内にとどまった

予定では全体で 40 分間としていたが、実際は 47 分（7 分超過）となった（表 1-2）。

参加者から「島の紹介・事業所の紹介」で用いた資料を共有したいとの希望が出され、閉会後にデータファイルを共有した。

２．アンケートの結果（表 4）

①「相手の島と同じ・似ていると思った点」として 12 件の回答が得られた。交通や物流に制約があること、職員の確保に難しさがあり移住者を含め少人数の職員で対応していることが記述されていた。

②「相手の島と違うと思った点」として 14 件の回答が得られた。島民の平均年齢や移住者の人数に関することが記述されていた。

③「聞いてみたいこと」として 20 件の回答が得られた。通所介護事業所の日常やケアに関することと、通所介護以外の事業も含めた法人の運営に関すること、職員の採用や育成に関すること、住民に関することが記述されていた。

④「一緒に考えてみたいこと」として 6 件の回答が得られた。高齢になっても暮らしやすい島づくりに向けた支援の体制や啓発活動について記述されていた。

⑤オンラインでの実施にあたり「心配だった点」として 6 件、「気になった点」として 5 件の回答が得られた。初対面の相手と話が合うか、オンラインの接続状況、一人ひとりが発言する時間が少なかったこと、研修時間に関する考えが記述されていた。

⑥その他気付いた点として、3 件の回答が得られた。相手の島に対する印象と今後の研修への期待が記述されていた。

アンケートの回答は島ごとに集約し、参加者全員に配布した。

D. 考察

離島に共通する課題への共感と、各島が抱える個別の状況に対する関心の両面が明らかとなった。特に、交通や人材確保といった離島に共通する課題に対しては、多くの参加者が自らの状況と重ね合わせており、同じ立場だからこそ共有できる理解と気付きが生まれていることがうかがえる。

一方で、島民の平均年齢や移住者の数など異なる実情にも目が向けられており、参加者が視野を広げる機会となったと考えられる。単なる情報交換にとどまらず、互いの島から学び合い、よりよい地域づくりに向けたヒントを得ようとする姿勢の表れと

考えられる。

また、提供している介護サービスの実態や法人全体の運営、人材育成、地域住民との関係性への関心の高さからは、現場の実務に直結する具体的な情報を求めていると感じられた。参加者がサービスの質や体制をより良くしようとする意欲に支えられていると考えられる。

さらに、今後の地域支援の在り方や高齢者が安心して暮らし続けられる島づくりについて、参加者が「一緒に考えたい」と感じており、今後のオンライン研修の可能性を広げる重要な兆しといえるであろう。

オンラインを用いて研修を実施することへの懸念もいくつか挙げられたが、同時に今後の交流に対する前向きな期待も見受けられ、これまでにない形での学びの場が参加者に受け入れられつつあることが分かる。今後、より充実した対話と協働の機会を提供していくことが求められる。

E. 結論

オンラインを用いることで、2 つの離島の介護専門職が容易に集まり、研修会を実施できた。離島という共通の環境にある介護専門職同士が互いの実情を知り、共感や新たな気付きを得る貴重な機会となった。参加者の意欲も高く、地域を超えた学び合いの重要性が改めて確認された。

一方、オンラインの特性により、通信環境や発言のしやすさに課題が残った。今後は研修の質を高める工夫とともに、継続的な交流や情報共有の場の設計、実践へのつなげ方を具体的に検討する必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

滝口優子，齊藤葉子，中村考一，粟田主一：過疎化が進展している離島・中山間地域におけるオンライン研修の状況と介護実践の課題．第 43 回日本認知症学会学術集会 2024 年 11 月 21-23 日．福島.

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む.）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

Reference

1）新潟県：新潟県離島振興計画　令和 5 年 4 月. https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/life/568737_1585071_misc.pdf（閲覧日：2025 年 4 月 24 日）

2）総務省：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数. https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/daityo/jinkou_jinkoudoutai-setaisuu.html（閲覧日：2025 年 4 月 24 日）

3）北大東村：位置と概要. https://vill.kitadaito.okinawa.jp/kitadaitou/ichi.html（閲覧日：2025 年 4 月 24 日）

4） 沖縄県：第 8 次沖縄県医療計画　令和 6 年 3 月.
https://www.pref.okinawa.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/028/660/dai5syou1.pdf（閲覧日：2025 年 4 月 24 日）

表 1-1，1-2　考案したプログラムと実施した結果

表 1-1 考案したプログラム【40 分】

16:30	開会　あいさつ　【5 分】
16:35	自己紹介　【5 分】
16:40	まずはお互いを知ろう！ 島の紹介・事業所の紹介 【20 分】
17:00	全体で共有/振り返り　【5 分】
17:05	閉会　あいさつ　【5 分】
17:10	終了

表 1-2 実施した結果【47 分】

16:30	開会　あいさつ　【4 分】
16:34	自己紹介　【9 分】
16:43	まずはお互いを知ろう！ 島の紹介・事業所の紹介 【30 分】
17:13	次回の開催について　【1 分】
17:14	閉会　あいさつ、記念撮影　【3 分】
17:17	終了

表 2　アンケート項目

①	（相手の島名）の 「島の紹介・事業所の紹介」 を聞いて、（回答者の島名）と同じ・似ていると思った点をご記入ください。
②	（相手の島名）の 「島の紹介・事業所の紹介」 を聞いて、（回答者の島名）と違うと思った点をご記入ください。
③	（相手の島名）の皆さんに聞いてみたいこと（なんでも OK です。できれば皆さんのお仕事に関することも）をご記入ください。
④	（相手の島名）の皆さんと一緒に考えてみたいこと（なんでも OK です。できれば皆さんのお仕事に関することも）をご記入ください。
⑤	オンラインでの実施にあたり心配だった点・気になった点がありましたらご記入ください。
⑥	その他、お気づきの点がありましたら教えてください。

表 3　自己紹介での発言（抜粋）

- 閉鎖的な環境で、自分たちの思い込みで進めてきたと思う。このような機会によって、いろいろな知識をみんなが身につけてよりよい介護ができていければいい。
- 移住して 6 年目、介護の仕事は 3 年になる。ここで初任者研修を受け、ここの介護しか経験がないので、他のところはどのようなのかすごく興味がある。このような場に参加できてとてもうれしい。
- この島で生まれ育った。勤めて 20 年弱くらいになる。私自身、いつまでこの島で年をとって生活できるか、考えるときがある。
- （本土の）特養で 4 年間勤務して、島に来てデイサービスで 6 年働いている。しゃべるのが苦手でなかなか伝わりにくい部分があるがよろしくお願いします。
- 島に来て 15 年、入職して 8 年目になる。今回初めての試みなので、とても楽しみにしている。いろいろ情報が共有できたらいいと思っている。
- この島の出身者と結婚して、13 年前に引っ越してきた。社協は 7 年になる。同じような境遇である離島の方とつながる機会がなかなかないので、いい機会にできたらと思っている。
- 結婚を機に島に引っ越してきて 10 年経った。社協には 2 年勤めている。事務職がメインで介護に入ることはないけれど、いろいろな情報、離島ならではの悩みや課題、こういうこといいよということを共有できたらいい。
- 島生まれ、島育ちで、高校進学のために本島に出たが、約 24 年前に戻ってきた。社協には 15～16 年勤めている。
- 島で生まれ、島で育って、15 歳で高校進学のため島から離れて 2～3 年本島で生活して戻ってきた。島のおじいさん・おばあさんのために何か協力できることはないのかなと思ってデイサービスに勤めている。毎日がとても楽しく仕事をさせてもらっている。
- 移住してまだ日が浅く、こちらに勤めだしたのが昨年 7 月。島に来て困っていると言えば、おじいちゃん・おばあちゃんたちの方言が分からなくて、「なんて言いました？」「こういうことだよ」と教えられながら、毎日楽しく仕事をしている。こちらのデイサービスの勤務経験は短いが、前のところでは約 12 年介護職をしていた。

表 4　アンケート集計結果

	粟島浦村	北大東村
①　同じ・似ていると思った点	・　島の規模 ・　住民の数 ・　お互い交通の便は大変と思った ・　離島であること ・　移住者が加わり、運営している。	・　職員数が少なく業務を兼務している ・　海が荒れると定期船が欠航する ・　島内の物価が高い ・　高校がない。複式学級がある。（北大東では現在複式クラスはない） ・　漁業が盛ん ・　通所介護の利用者数が大体同じ ・　利用者、スタッフの確保が難しい
②　違うと思った点	・　子育て世代（結婚など）の移住世帯が多い ・　平均年齢が低い ・　島民の方の介護センターに対しての受け取り方が違うと感じた。粟島は「認知症の人が行くところ」「家でお風呂に入れない人」との思いが強い。北大東島では元気な方でも利用されているイメージ。 ・　島の行事をみんなで楽しんでいる。 ・　島の規模が違う ・　北大東島は沖縄県であること ・　福祉サービスを提供する仕組みが整っている。 ・　高齢化率が低い	・　無医村 ・　高齢化率が高く、移住者が多い ・　子育て世代のＩターン･Ｕターンが少ない（北大東でもピーク時期よりも減ってきてはいるが、割合的には若い世代は多い方かと思う。） ・　デイサービスの営業日、利用者数 ・　移住者が積極的に社会参加している ・　利用者、スタッフの確保が難しい[1]

[1] 質問１にも同様の回答があるが、別の回答者であることを確認した。

	粟島浦村	北大東村
③　聞いてみたいこと	・　採用・募集計画、それに対する応募状況を知りたい。 ・　介護をしようと思ったきっかけは何ですか。島でなく違うところで働こうとは思わなかったですか？ ・　北大東島の利用者さんで、「暑いから今日いかない」と言う方はおられますか？そのときの対応はどうされていますか。 ・　介護度が違う対象者を同時に見ることに対してどう接したら良いのか ・　北大東島の強み、良さを生かして、こんな事を取り入れたら利用者さんのＡＤＬが向上した！という事例があれば、どんなことでも良いので教えてほしいです。 ・　事業の計画や介護サービスを提供する上で、大切にしている事を知りたいです。	・　社協としてどのような事業を実施しているか ・　島内の年代別人口割合 ・　デイサービスの研修をどうしているか？ ・　行政・福祉サービス内容や地域住民に対する補助や助成金について ・　どのような地縁団体があるか ・　デイサービス利用者増への取組み ・　住民に対して情報発信や勉強会を行っているか ・　住民の方が介護や認知症について、自分事と考えているか ・　地域性や、デイサービスの特色・活動内容など ・　介護度が上がった場合、利用者はどうするか？ ・　高齢者の方の現状（介護認定を受けられている方の割合や自宅での介護が必要になった場合はどうしているか） ・　デイサービス利用者の男女比（男性の方が楽しめる工夫などがあれば、教えて頂きたいです。） ・　無医村と聞いたのですが、保健師さんはいますか？ ・　レクレーションはどのような事をしていますか？

	粟島浦村	北大東村
④　一緒に考えてみたいこと	・　本村は小さな村なので周囲の目を気にしてデイサービスに通うことを避ける傾向が強い。デイサービスを活用していただくことはご家族、利用者の負担軽減に繋がると考えていますが、ご家族・利用者の同意をなかなか頂けない。より効果的な周知・啓発方法など共有したい。（利用者を増やす、というのは本来の趣旨とは違いますが、利用した方が良いとケアマネが考えているのに利用を避ける方が多いので・・・） ・　生活困窮者に対しての支援について。　漁業、民宿、栄えてきた粟島。今いる高齢者のほとんどが、国民年金で暮らしている。子供は子供の生活があるので、子供に頼るのはできないと考える人たちが多い。物価高騰などの影響により、受診を控えたり、冷暖房も控えたり、苦しい生活となっている。一緒に自分たちにできる事を考えたい。 ・　介護事業所使用時以外の認知症の方の支援について。　離島で、無医村、消防署がないという事もあり、地域住民による認知症の方の行動に対する監視の目が強く、本人が出来る事を奪ってしまっている場面が多々ある（特に火の扱い、一人での外出）。認知症の方本人に対して、地域に対して、どんな支援をしていけばいいのか一緒に考えたい。	・　事業継続・新規事業（地域が豊かになる）するための、人材確保や地域づくりの政策など ・　同じような小さな離島だと利用者との距離感が近すぎる事で、困ることなど。また、そういう時はどのように対応しているか？ ・　コミュニティの狭い島で認知症の方が暮らしやすいようみんなで支え合うためにはどうしたらよいか

	粟島浦村	北大東村
⑤　オンラインでの実施にあたり、心配だった点、気になった点	（心配だった点） ・　事前説明が完璧だったので特に問題なしです。 ・　北大東島の皆さんは若い職員が多く、当方は高齢の職員が多いのですが、話が合うでしょうか。 ・　初めてのことで緊張しました。 ・　本来作成しなければいけない書類を作成していない、研修はほとんど行っていない等の課題がある粟島の現状で他事業所と話ができるのか心配でした。 ・　方言や地域独特の呼び名などで、話している内容が伝わるか心配でした。 （気になった点） ・　粟島と違い若いスタッフだなぁ・・・と	（心配だった点） ・　上手くオンラインが繋がるか心配でした （気になった点） ・　粟島の画面が数回フリーズしたこと ・　参加者が多い為、個人の発言が少なかった ・　ある程度の時間確保が必要だと思われる ・　時間が早かったので、その時に意見交換が行えたらよかった（間が空くと忘れてしまうから）[2]

[2] 交流会の時間を長く設定し、時間内に意見交換が行えたらよかったという意見であることを確認した。

	粟島浦村	北大東村
⑥　その他	・　北大東村はいかにも南国で綺麗なロケーションだと感じました。 ・　粟島は、利用者さんのご家族は、自分たちが少しでも休める様に、施設を利用することが一番の理由に思えるが、北大東島の利用者さんのご家族は利用者さんを一番にしているように感じた。 ・　他の事業所さんと時間を作り話す機会がないので、すごく貴重な時間となっています。粟島だけなのかもしれませんが、本土とは違い、へき地基準や離島相当で事業所がサービスを提供できる為、多職種がそろっていないという現状にあります。その為、介護福祉士でありながらも、生活相談員、栄養士、看護師、作業療法、理学療法士といった知識を広く浅く身につけなければいけません。これらは資格を持っているわけでもないので、各専門職の研修にも参加する事ができず、介護福祉士の知識だけでは現状の課題に対応しきれない事が多くあります。今回のように、気軽に多職種の声が聴ける機会があるという事は、利用者のケアを展開していく上で、とてもありがたいです。ぜひ、継続的に実施してほしいです。	回答無し